## 公開実用 昭和54— 134088



(3,000]4.

実用新案登録願 🕹

**昭和** 53 年 月 日

特許庁長官 殿

考案の"名称 酸光光度計開吸収セル

考 案 者

株式会社 日立製作所 弗珂工場内

(注か 0 名)

実用新案登録出願人

〒100 東京都千代田区九の内一丁目5番1号

6 516 株式会社 日 立 製 作 所

医发布盲 山 博 吉

代 理 人

〒100 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 株式会社 日 立 製 作 所 内 電話東京 270-2111(大代表)

1. 中海**米登**) 和爾森 4. 1

53 3

53 029633 54-13408f

本意圖

B 1

#### 明 細 書

考案の名称 吸光光度計用吸収セル 実用新案登録請求の範囲

1. 試料の吸光度を測定するために、試料を入れる吸光光度計用吸収セルにおいて、2個以上の、他とセル窓にて隔離され、異なつたあるいは同一のセル長を有するセル室を具備し、それぞれのセル室には試料入口と試料出口を設けてあるとを特徴とする吸光光度計用吸収セル。

#### 考案の詳細な説明

本考案は吸光光度計用吸収セルに係り、特に、 2種類以上の異なつたセル長を備えた連続側定の 吸光光度計用吸収セルに関する。

従来の吸収セルとしては、第1図及び第2図に示すように、セル長が li あるいは l2の如くセル 長に応じた大きさの吸収セルがあり、セル長はそれぞれの吸収セルにおいて固有である。したがつて、吸光度が異なる2種類以上の試料の吸光度を 側定する場合には、それぞれの測定すべき吸光度 K 応じたセル長を有する側定セルを用意し、交換

(1)

### 公開実用 昭和54一 134088

する必要が生じる欠点があり、吸光度の異なる試料を一定時間毎に連続で切替えて測定することは 困難である。

本考案は、セル窓で隔離された2個以上のセル室を具備し、それぞれのセル室に対し、試料入口および試料出口を備え、2種類以上の異なつたセル長を有するようにしたものである。

以下、本考案の一実施例を図面に基づいて説明 する。

第3図において、吸収セル1はセル窓5により 隔離されたセル室2、2'を具備し、それぞれと1、 と2 のセル長を有している。また、前記セル室2、2'にはそれぞれ試料入口3、3' および試料出口4・4'を備えているので、試料の吸光度に応じてセル2・2'に試料を導入し、最適のセル長と1 またはと2、さらには、セル2・2'に試料を導入することによりセル長と1+と2で吸光度を側定することができる。

第4図は、本考案を実際に吸光度の異なつた試 料の連続側定に応用した実施例を示すものである。 試料Aは試料A入口12から電磁弁8を介し、吸光光度計6内の吸収セル1のセル室2に導入され、電磁并10を介して試料A出口15から排出されている。一方、試料Bは電磁弁9により流れを遮断されている。また、一般に液体では水、気体では窒素ガスなど測定に支障をきたさないとに試料は電磁弁8で遮断され、セル室2に導入され、電磁弁11を介してゼロ試料出口17から排出されている。したがつて、この状態では試料Aがセル室2の有するセル長で測定される。

次に試料Bを測定する場合には、電磁弁切替ユニット7で電磁弁8~11を切替える。すなわち試料Aは電磁弁8で流れを遮断され、試料Bが電磁弁9を介し、セル室2で導入され、電磁弁11を介して試料出口16へ排出される。またゼロ試料は電磁弁9で遮断されてセル室2には流入せず、電磁弁8を介してセル室2へ流入してセル室2内部に存在していた試料Aを追い出し、電磁弁10を介してゼロ試料出口17から排出される。

1

### 公開実用 昭和54—]134088

したがつてこの状態では試料 B はセル室 2'の有するセル長で側定される。

本考案によれば種々のセル長を有しているので、 吸光度の異なる試料を外部で切替えて最良のセル 長で連続的かつ自動的に側定することができる。 図面の簡単な説明

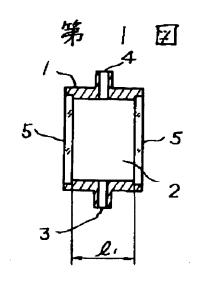
第1図および第2図は従来の連続測定の吸光光度計用吸収セルの構造図、第3図は本考案の一実施例を示す構造図、第4図は本考案を応用した実施例を示す構成図である。

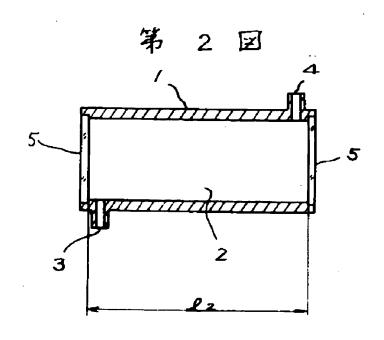
1 …吸収セル、2.2′…セル室、3.3′…試料入口、4.4′…試料出口、5 …セル窓。

代理人 弁理士 高橋明規

1

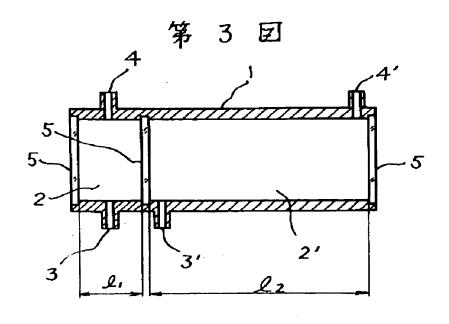
21.

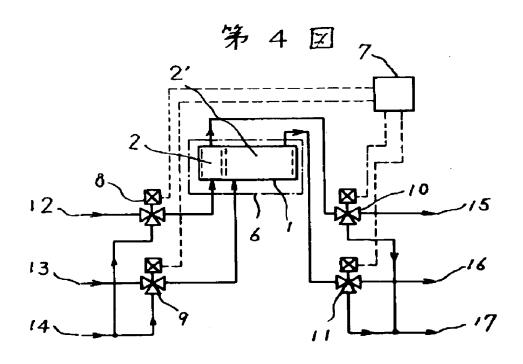




1. 069/2代理人 高 橋 明 夫

# 公開実用 昭和54-134088





1340482/2

代理人 高 橋 明 夫